

「笑顔で卒業式を」

豊翔高等学院もいよいよ卒業式を迎える。卒業式には二つの思い出がある。ひとつは小学校教師時代に新任で5・6年生を担当した卒業式だ。もう一つは、私の高校時代の卒業式である。小林校長が挨拶に紙面を使っているの(笑)、このコラムでは教師時代の思い出を短く記したい。

新任で赴任した小学校は宇治市の振興住宅地にあり、5年生の担任として教師生活のスタートを切った。夏休み前の7月のとある日曜日に、私の実家の近くにある小さな赤田川でのイベントを企画し、生徒20数名で魚釣りをしたりして川遊びを楽しんだ。校長には事前に届けたが「泳いだりすることがないように十分注意するように」と指示を受けた。しかし、生徒は知恵が働く。わざとビーチボールを川に投げ、流れていくビーチボールを追いかけて一人の生徒がパンツ1枚になって川に入った。それを目の当たりにした数名の男子生徒も同じように川に飛び込み泳ぎ始めた。深くない川なので溺れる心配はないが、一瞬驚いたものの苦笑いするしかなかった。すると驚くことに、今度は女の子も上着を脱いで川に入って泳ぎ始めた。誰も水着は持っていなかったのだ。

その川は私の実家まで歩いて15分ぐらいのところにあった。みんなずぶ濡れのまま実家に着いた。乾燥機やドライヤーがない時代、母は笑顔で生徒のパンツを洗濯ざおに干した。洗濯ざおに男子と女子のパンツが並び、暑い日差しを受けていた。夕方になり生徒は半湯きの下着を身に着けて、楽しそうにJR加茂駅から電車に乗って帰宅した。その夜、保護者から数本の電話が入った。クレームだろうと思ったが、意外とお礼の電話であり、「校長先生に怒られないように」と気遣ってくれるお母さんもいた。

そして6年生の生活を終えて、そんな生徒と保護者とともに、私は教師生活初めての卒業式を迎えた。恥ずかしくも号泣してしまった。涙が止まらないという経験は、それが最初で最後であった。年配の女性教員に「貴男ひとりで育てたわけでないから、今後は笑顔で送ってあげなさい」と叱責され、その後6年生を6回担任したが、卒業式で涙を流すことはなく我慢したが、笑顔で送ることも難しかった。

豊翔の卒業式で、小林校長も大介先生も杏先生も佐伯先生も、きっと式の途中で涙を流すだろう。日々、全力で接してきた先生が、生徒の成長を心から喜ぶ涙に違いない。だから、笑顔で送る役は私が引き受けたい。

(丹羽 豊)